

㊦ 身近な自然を楽しむ: 12月, 色とりどりの草木が映える時

Enjoy the surrounding nature: December, when colorful plants shine

12/3/2023 吉野輝雄

立冬から1ヶ月後の12月はじめ、日の出時刻が6時過ぎとなり、寒く暗い朝を迎えている。しかし、12月はクリスマスの月でありサンタクロースが贈り物を届けてくれる心踊るシーズンでもある。芦花公園では今年、やさしいサンタの顔の切り株画が花の丘の周囲に並び、訪問者を喜ばせている。冬の間、霜にも負けず咲き続けるパンジーを花の丘に植えている児玉さんのアイデアとお世話で子どもたちや来訪者が自由にサンタの顔を描いて並べたのだ。スバラッシー！ 感謝！！

クリスマスに無くてはならない花ポインセチアと共に、冬でも赤く凜と咲くネリネ・ダイヤモンドリリーが心を熱くさせる。

2段目は、12月になった事を告げてくれる花、と私が以前から思っていた花たちだ。ところが今年は、皇帝ダリアもツワブキ（石路）もシクラメンも11月下旬に花が咲いているのを見て、私は温暖化を実感した。イソギク（磯菊）は初めて見た花だが、例年通りの開花と言う。葉っぱのエッジが白いのが印象的だ。

3段目のヤツデ（八つ手、*Fatsia japonica* *Fatsia*）は7～9葉に分かれた葉(中をとって8つ葉)の形から命名され、“天狗のうちわ”とも呼ばれる。葉が末広がりで縁起が良いとも言われている。ジンジャーリリー（白と黄）。白は良い香りだが、黄は刺激的な香りがする（ショウガ生姜とは別種）。バラには四季それぞれに咲く種があるが、冬バラも見事だ。

4段目は12月に入り急速に進んだ芦花公園内の3種のもみじ（紅葉・黄葉）。正門近くのケヤキ（欒）は絵のようだ。中庭の真っ赤なモミジ（紅葉）が美しい。また地面を覆うプラタナスの落ち葉は、冬の到来を確かに告げる。